

渡部悟教授の定年退職記念特集の発刊にあたって

日本大学商学部長 高橋 史安

渡部悟教授は、1973年4月に日本大学商学部体育助手に就任されました。専任講師、助教授を経て、1993年に教授となり、2019年3月に至るまで46年間の長きにわたってスポーツ健康科目担当教員として日本大学商学部に勤務されました。その間には、教育や研究はもとより大学運営にも熱心に取り組み、商学部に多大な貢献をされてきました。心からの感謝を申し上げる次第です。

渡部教授は、商学部の運営面において学生生活委員会副委員長（1992年10月～1994年8月、1996年10月～2000年3月、2003年2月～2006年3月、2014年4月～2016年7月）、学生生活委員会委員長（2009年10月～2011年3月）、企画委員会副委員長（2011年10月～2014年3月）などを歴任しました。広報委員会委員長（2011年10月～2013年3月）を務められた際には、大学おける広報活動の重要性を指摘し、企画広報委員会の発足にご尽力されました。

学生生活委員会には長年所属し、商学部学生がより良い学生生活を送ることに資する多くのプロジェクトに従事されました。例えば、新入生に向けて行われたサマースクールからFOC（Freshman Orientation Camp）に至るプログラムの立案、学生団体の活動促進をねらいとしたリーダーズ会議の稼働などが挙げられます。

渡部教授は研究面でも多くの業績を残しておられます。ご専門はスポーツ科学であり、スポーツや運動が上達するプロセスや心理的側面に運動が及ぼす影響を中心として、精力的に研究を進められてこられました。これらの問題に対して、実験や調査を通して得られたデータを用いて分析し、その成果を学会発表や多数の学術論文として社会に発信されております。研究活動は、所属する日本体育学会、日本体力医学会、日本スポーツ心理学会、日本コーチング学会、桜門体育学会でも展開されています。桜門体育学会では理事を務められ、学会の発展と研究の向上にご貢献をされてこられました。

そして、渡部教授が研究によって積み重ねた知見を用いて教育面に注力されたことはいうまでもありません。スポーツ実技や健康とスポーツをご担当いただき、教養としてのスポーツや運動の価値を学生に対して熱心に教授いただきました。

渡部教授には、今後も日本大学商学部に対して積極的にご意見、ご提言いただきますようお願い申し上げますとともに、渡部教授の今後のますますのご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。巻頭の言葉とさせていただきます。